

## 第18回遭難防止・安全教育担当者会議

梅雨空の6月22日。第18回遭難防止・安全教育担当者会議が大宮高鼻公民館で行われた。参加者は17団体。23名。

今回は、アドバイザーとして埼玉労山救助隊隊長を務める柴山さんを迎え、プロジェクターを使用して現実に赤城山・黒檜山で起きた死亡遭難事故発生から捜索・発見までの詳細などとともに、山のアクシデントの原因・アクシデントの悪化のしくみ・アクシデントに対する知識と技術などの説明があった。

アクシデントの原因としては、大元として道迷いが一番多く、計画書による山行管理や日々のトレーニングなど、避けられるアクシデントと、避けられないアクシデントがある事。避けられないアクシデントに対しては、重症化・悪化を防ぐために、ビバーク技術など知識と技術を習得して、負の連鎖を断ち切る発想。時間と体力の無駄を防ぐ為に、可能と不可能の的確な判断が出来るようにすることなどを教わった。

時間の関係で、ツェルトの張り方・使用方法までは出来なかったが、すぐに使えて、すぐに仕舞えるようにして、積極的にツェルトを使うよう指導があった。

また、深谷こまくさ山の会より、筑波山での骨折事故の説明。骨折箇所の固定に割り箸を使用したそうだが、広い範囲で固定するため、木の枝や『サムスプリント』などの固定具の用意があった方が良かったなどのアドバイスを受けた。

現実に事故・アクシデントに遭遇した場合、自分が的確な行動がとれるか解らないが、『先ず落ち付く事』。  
最低限でも人命を守る行動がとれるよう、経験・知識・技術を身に付けようと思う。

ハイジアルペンクラブ  
木阪 記